

普及活動現地情報

「農業現場では、今」



【那賀振興局】じゃがいも・たまねぎ収穫体験

令和6年6月号

和歌山県農林水産部経営支援課

(農業革新支援センター)

はじめに

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。

和歌山県 経営支援課 普及



< 目 次 >

	頁数
I 海草振興局	1-2
1. 重点プロジェクト【若手生産者を中心としたいちご産地の再興】 ～いちご炭疽病検定を実施～	
2. 和歌山県農業士認定事業の推進～認定に向けた支援活動を実施～	
3. にんじん優良品種試験の実施	
4. 小学生が田植えを体験	
II 那賀振興局	3
1. 東貴志小学校で「うめの出前授業」を実施	
2. 黒豆定植イベントを開催 ～紀の川市鞆渕地区～	
III 伊都振興局	4
1. 食育活動として小学校へのうめの出前授業を実施	
2. クビアカツヤカミキリの出前授業を実施	
IV 有田振興局	5-6
1. 宮原小学校で和歌山県の果物についての授業を開催	
2. クビアカツヤカミキリの悉皆調査を実施	
3. 田んぼの学校（糸我小学校）で田植え・アイガモ放鳥授業開催	
4. JAありだ野菜部会ししとう部門全体会でGAP研修会を開催	
V 日高振興局	7-8
1. クビアカツヤカミキリ悉皆調査を実施	
2. 美浜町でスクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）一斉駆除を実施	
3. 令和6年度由良町農業士会夏季研修会を開催	
VI 西牟婁振興局	9
1. 重点プロジェクト【うめの超省力技術と低樹高コンパクト整枝の導入推進による産地維持】～ウメ摘心+カットバック処理実証園で夏季摘心処理を実施～	
2. 西牟婁地方クビアカツヤカミキリ連絡会議を開催	
VII 東牟婁振興局	10
1. 県産農産物（うめ）の提供に係る出前授業を実施	
2. クビアカツヤカミキリ発生状況調査を実施	
VIII 農林大学校	11
1. 2年生のインターンシップ研修	

I 海草振興局

1. 重点プロジェクト【若手生産者を中心としたいちご産地の再興】

～いちご炭疽病検定を実施～

管内では近年新規参入のいちご農家が増加しており、農業水産振興課ではこれらの農家の安定生産を実現し産地化につなげるべく普及活動を行っている。

今回はいちごの重要病害の1つである炭疽病対策として、農業試験場で簡易検定を実施した。5月28日に管内農家11名から採集した検定葉50検体を洗浄、殺菌しシャーレへ封入後、28℃でインキュベート^{*}した。2週間後の6月11日に孢子塊の形成有無について判定を行った。

判定結果をもとに普及指導員がいちご農家へ炭疽病対策の指導を行っており、今後も引き続きいちご栽培の指導を行っていく。



炭疽病の判定

※インキュベート・・・一定温度下で管理すること

2. 和歌山県農業士認定事業の推進～認定に向けた支援活動を実施～

農業水産振興課では、農業士の認定を通じて管内中核農業者の意欲や社会的評価を高め、活動を促進し、管内農業を活性化させるため農業士認定事業の推進を行っている。今年度、新たに農業士認定を希望する農業者に、認定に向けた支援活動を実施した。

当課では4月から、農業者が集まる会で農業士会の説明を実施しているところである。そこで農業士認定に興味を持った農業者を個別に訪問し、会活動の詳細を説明した。また、認定に向けて自身の経営内容の把握・整理を促し、将来ビジョンの明確化について助言した。

個別訪問した農業者からは、「認定を通して地域農業者との連携を図っていきたい」、「将来的には、新規就農希望者への指導・支援を行いたい」等、積極的な意見が聞かれた。



個別訪問による説明

3. にんじん優良品種試験の実施

和歌山市の布引、毛見の砂地地帯はにんじんの産地であり、春から初夏にかけて収穫され、京阪神市場等に出荷される。当地域のにんじんは品質が高く、市場等から高い評価を得ている。農業水産振興課ではJAわかやまと連携し、産地により適した新品種を導入するため慣行品種との比較試験を実施している。今年は3月に播種した3品種を6月12日、19日に収穫し、葉の長さや根の太さ、糖度等を調査した。

今後、部会員らと調査結果を協議し、どの品種が有望かを検討するとともに、有望と思われる品種については引き続き試験を実施していく。



品種調査の様子

4. 小学生が田植えを体験

農業水産振興課では、農業体験を通じて農産物の生産現場について関心や理解を深め、食べ物を大切にする心を育てることを目的に、体験学習の指導を行っている。6月20日、和歌山市梅原の貴志正幸氏のほ場で和歌山大学教育学部附属小学校の5年生62名を対象に田植えの体験学習会を行った。

児童は貴志氏から米の品種や苗の植え方について説明を受けた後、田植え作業を体験した。初めは慣れない足場や生き物に戸惑っていたが、指導を受けるうちに徐々に慣れていき、植えるペースが上がっていった。

田植え後、児童らは「この田んぼでどれくらいの量を収穫できるのか」などの質問をするなど、意欲的に学んでいた。10月には稲刈り体験を予定している。



田植えの説明



田植え体験

II 那賀振興局

1. 東貴志小学校で「うめの出前授業」を実施

6月11日、紀の川市立東貴志小学校の4年生（14名）を対象に、うめの出前授業を実施した。この授業は、農業に対する理解を深め、郷土愛や食に対する感謝の気持ちを醸成することを目的としている。

はじめに、和歌山県のうめについて、遠田技師がクイズを交えながら説明した。児童達は果物やうめの好き嫌いなどについて盛り上がりながら積極的に授業に参加した。続けて、金岡普及指導員より、クビアカツヤカミキリについて説明を行い、見つけたらすぐ大人に報告するよう、子どもたちに協力を依頼した。

その後、JA紀の里梅部会長の味村修作氏が実物のうめの実を見せながら、せん定は散髪に例えるなど、子どもたちにもわかりやすい言葉で年間作業の説明をした。

講義の後、児童達は3人1組で2瓶（うめ2kg）ずつ、合計10瓶のうめジュースを作った。完成を待ち遠しく思う児童達の姿が印象的であった。



梅ジュースを調理する児童達

2. 黒豆定植イベントを開催 ～紀の川市鞆淵地区～

6月15日ともぶち地域活性化実行委員会は、紀の川市鞆淵地区で黒豆定植イベントを開催し、県内外から大人89名、子ども22名の参加があった。

昨年は6月2日の台風2号の影響で田畑が崩れる等の大きな被害があり、黒豆定植イベントが休止となっていた。今回は恒例の黒豆定植体験やじゃがいも・たまねぎ収穫体験に加えて、コロナ禍中休止していた鮎つかみ体験、竹の食器作り体験、餅つき体験を実施した。

鮎つかみ体験では、子どもたちは設営されたプールに入り、大はしゃぎで鮎を追った。捕まえた鮎はその場でスタッフが焼き上げ、子どもたちに振舞われた。黒豆定植体験では、参加者はスタッフから指導を受けながら、1区画10株を丁寧に植え付けた。リピーター家族は「今年は様々な体験が用意されていて家族皆で楽しむことができた。秋の収穫イベントが待ち遠しい」と話した。イベント終了後、希望者は会場近くの真国川でホタル観賞し、帰路についた。



黒豆定植体験



じゃがいも・たまねぎ収穫体験

Ⅲ 伊都振興局

1. 食育活動として小学校へのうめの出前授業を実施

6月11日に、かつらぎ町立大谷小学校の5年生の児童4名を対象に、うめの出前授業を行った。

この授業は、児童達が県産果実の知識や農業への理解を深め、郷土愛や食に対する感謝の気持ちを醸成することを目的として行っている。

はじめに、農業水産振興課の山崎技師が、和歌山県のうめの生産量や品種、栄養について説明した後、同課の浅井普及指導員がクビアカツヤカミキリの注意喚起を行った。

その後、うめジュースの作り方について説明し、児童各自がうめを水で洗い、竹串でヘタを除去し、出来上がりを早くするためにフォークで果実に傷を付け、砂糖と一緒に瓶詰めを行った。作業終了後児童からは、「傷をつける作業が大変だった」「おいしいうめジュースができるか楽しみ」という声があった。

今後も、和歌山県産の特産物の活用や地産地消をテーマとした食育活動に取り組む。



授業の様子



うめジュースづくり

2. クビアカツヤカミキリの出前授業を実施

6月28日に、橋本市立柱本小学校の6年生の生徒31名を対象に、クビアカツヤカミキリの出前授業を行った。

この授業は、本県の果樹生産と、果樹に深刻な被害を与える「クビアカツヤカミキリ」防除への理解を深めることを目的として行っている。

はじめに、農業水産振興課の浅井普及指導員が、和歌山県の果樹生産の概要について説明し、続いてクビアカツヤカミキリの習性と果樹（もも、うめ、すもも）の被害について説明した。

生徒からは、「クビアカツヤカミキリは（捕まえた時）攻撃してこないか？」「クビアカツヤカミキリは、木の芽とかは食べないのか？」等の質問があり、「近くの公園で見た」「ビンに入ったクビアカ（死骸）を見た」等の目撃情報も多かった。

当課では、今後もクビアカツヤカミキリ防除に取り組んでいく。



出前授業の様子

IV 有田振興局

1. 宮原小学校で和歌山県の果物についての授業を開催

有田市立宮原小学校では、地元産業への理解を深めるため、総合的な学習の時間で「和歌山の果物について」の授業を行っている。6月5日、農業水産振興課は6年生39名を対象に授業を行った。

授業では、当課の古田普及指導員が、みかんやうめ、山椒など、和歌山県が生産量日本一である果樹や、日本農業遺産に認定された有田みかんシステムについて説明した。

その後は、教諭が、地域でいちごの県オリジナル品種「まりひめ」の栽培を行っている農業士の松本智行氏から、農業を営むうえでの喜びや苦労話、こだわりなどについて事前にインタビューで聞き取った内容を基に授業を行った。農家が丹精込めて作った作物を残さず食べてほしい、また地元を誇りに思い、地元の農作物を進んで食べてほしいという松本氏からのメッセージを児童らに伝えた。

児童からは「いちごの味を落とさず、虫がつかないようにするにはとても苦労するのだと知った。おいしいいちごを作ってくれる農家さんに感謝したい。」「和歌山県が生産量全国一位の果物がたくさんあって驚いた」等の声が聞かれた。また今回の授業を契機とし、宮原小学校6年生はトマト農家等、地域の生産者の声を聞き、まとめ学習を始めることになった。農業水産振興課は今後も地域農業者と連携し学習支援を行っていく。



古田普及指導員による授業

2. クビアカツヤカミキリの悉皆調査を実施

6月4日に有田川町内のさくらで、クビアカツヤカミキリのフラスが管内で初めて確認された。これを受けて、農業水産振興課、農地課、林務課、衛生環境課、管内町関係各課、農協などが協力して、被害発生樹から半径2km範囲内で、うめ、もも、すもも、さくらなどのバラ科樹木の悉皆調査を行った。その結果、湯浅町内で新たにすもも7本の被害が確認され、その後詳細に調べることにより13本の被害となった。

農地以外での注意喚起を徹底するため、管内市町の回覧にてお知らせする他、管内で核果類栽培農家に対して研修会を開催する計画をたてている。今後も定点調査を行い、寄せられた通報も併せてクビアカツヤカミキリの防除啓発に努めていく。



関係者に調査方法を説明



被害樹で発生しているフラスの確認

3. 田んぼの学校（糸我小学校）で田植え・アイガモ放鳥授業開催

有田市立糸我小学校では、糸我地区青少年育成会主催のもと、アイガモ農法による米作り「田んぼの学校」に取り組んでいる。

今年度は6月10日に5年生による苗取り作業、6月11日に全校生徒による田植えが行われた。

「田んぼの学校」校長である山崎佳彦氏（元指導農業士）が田植えの方法について説明した後、児童らは一列に並び、慣れない田んぼに足をすくわれながらも地元農家の掛け声に合わせて一斉に植えていった。終了後、児童からは「疲れたけど楽しかった」や「稲刈りが楽しみ」などの声が聞かれた。

また、同月19日には児童が孵化させたアイガモのヒナと購入したヒナの計19羽を田んぼに放った。農業水産振興課では、今後も地域の農業者とともに、食育活動の支援を行っていく。



田植えをする児童ら



水田にアイガモを放す児童

4. JAありだ野菜部会ししとう部門全体会でGAP研修会を開催

JAありだ野菜部会ししとう部門では、慣行品種の「葵ししとう」や辛くないししとう「ししわかまる」の出荷に重点を置いており、部会として会員に日々厳しい品質管理の徹底を呼び掛けている。

6月26日、ししとう部門（部門長：上野博行氏）全体会（部会員19名）がGAP研修会を開催し、当課の武内普及指導員が講師を務めた。まず、GAP（農業生産工程管理）を厳守する目的や意義について説明を行ったのち、GAP理解度テストを用いて、農業生産現場での課題とそれらに対する改善策や対応策を考えて発表していただいた。



武内普及指導員による説明

その後、武内普及指導員からししとうの出荷調整施設内での点検項目やリスク管理手法、PDCAサイクルによる日々の改善の重要性について説明し、「GAPの手法を通して常に農業生産現場の改善と向上に取り組み、より高品質のししとう出荷を目指していただきたい」と説明した。

会員からは、「日々の生産現場での点検が大事だと気付けた。今後も見直しや改善を繰り返し行っていきたい」、「ししわかまる」等、有田にしかない高品質なししとうのブランドを守っていきたい」等の声が挙がった。当課では今後も関係機関と連携しながらGAPの普及・啓発に取り組んでいく。

V 日高振興局

1. クビアカツヤカミキリ悉皆調査を実施

日高地域では昨年度からクビアカツヤカミキリの被害を確認している。令和6年5月末までのクビアカツヤカミキリの累計被害状況は、管内で41カ所122樹あり、今年度も新たな被害が発生している。

6月12日に日高川町で被害実態の把握と被害拡大防止を目的とした調査を、実施した。日高川町役場、JA紀州、果樹試験場うめ研究所、農業水産振興課職員の35名で、314か所、2807樹を調査し、あらたな被害を25樹確認した。被害樹の多くは、昨年度の被害樹発生園地で確認された。

今後も、関係機関と協力しながら被害実態の把握を進めるとともに、被害樹への適正な対策実施を啓発していく。



悉皆調査の様子（日高川町）

2. 美浜町でスクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）一斉駆除を実施

6月30日、美浜町でスクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）の一斉駆除を行った。美浜町は水稻の生産が盛んな地域であるが、スクミリンゴガイの食害が問題となっている。そのため美浜町農業振興研究会（会長：久保博己氏）、地元の農業者、JA紀州、農業水産振興課で、毎年6月下旬に駆除を実施している。

当日は、農業者及び関係者40名が参加し、スクミリンゴガイ計60kgを回収、処分した。

また、美浜町職員と当課の小坂技師が各水田を巡回し、被害状況や対策実施状況等の聞き取りを行った。参加した農業者からは「今後も続けていきたい」等の声があった。



スクミリンゴガイの被害が大きかった水田



捕獲したスクミリンゴガイ

3. 令和6年度由良町農業士会夏季研修会を開催

6月28日、由良町農業士会(会長：濱野一宏氏)が、由良町衣奈会館において夏季研修会を開催し、会員11名が出席した。

まず、果樹試験場の直川副主査研究員から、「病虫害防除における試験場での最新試験結果や農薬の基礎知識」について説明して頂いたあと、意見交換を行った。

続いて、温州みかんの花芽抑制による隔年結果性是正や摘果省力化などを目的に行っている冬季ジベレリン散布試験の結果について、日高振興局農業水産振興課の柏木普及指導員から説明を行った。

会員からは、「農薬の成分や作用を理解して散布を行うことが必要と改めて感じた」や「隔年結果性是正のために、冬季ジベレリン散布の結果を踏まえ、今年散布に取り組みたい」との感想があった。



直川副主査研究員の説明

VI 西牟婁振興局

1. 重点プロジェクト【うめの超省力技術と低樹高コンパクト整枝の導入推進による産地維持】～うめ摘心+カットバック処理実証園で夏季摘心処理を実施～

農業水産振興課では、うめ「南高」の省力かつ着果安定対策として取り組んでいる摘心+カットバック処理実証園で、電動バリカン使用による夏季の摘心処理を6月6日に田辺市下三栖、6月19日に田辺市秋津川で実施した。

春季に摘心処理した樹の徒長枝発生本数は、慣行樹の半分程度となり、秋季のせん定作業が軽減されるなど一定の省力効果が認められている。今回、さらに枝梢管理作業の大幅削減に向け、徒長枝の発生を極力少なくすることを目的に、春季の摘心後に伸長した新梢を夏季の摘心処理として電動バリカンによりせん除した。18年生樹一樹当たりの処理に要した時間は、電動バリカン処理に約20分、バリカン処理後残った太枝の除去に手ばさみで約10分を要した。また、せん除した枝の重量は一樹当たり約3kgと少量であった。

今後は、秋季の徒長枝発生程度と樹勢の確認を行うとともに、夏季の摘心処理の有無によるせん定作業に要する時間、せん除した枝重量の調査を行い、一連の枝梢管理労力の大幅軽減に向けた技術の確立を目指す。



夏季バリカン処理の様子（田辺市下三栖）

2. 西牟婁地方クビアカツヤカミキリ連絡会議を開催

振興局関係各課、市町、JA、県研究機関で構成される、西牟婁地方クビアカツヤカミキリ連絡会議が、6月19日に開催された。

会議では、県内のクビアカツヤカミキリの被害状況や西牟婁地域内で年間2回実施している定点調査の結果について、報告を行った。定点調査では、うめ、すもも、さくらの3品目のべ1,940本を調査し、今のところ被害は確認されていない。今年、6月に有田地域で被害が初確認されたことや、日高地域の被害が拡大していることを受け、定点調査の調査方法の変更や、新たに龍神村で定点調査を始めることを報告した。さらに、被害発生確認後の悉皆調査の実施方法を再確認し、調査で使用する地図の作成方法について協議した。

今後も調査を継続し、チラシの配布による周知、啓発を行い早期発見に向け警戒を強める。



被害発生確認後の対応について協議

Ⅶ 東牟婁振興局

1. 県産農産物（うめ）の提供に係る出前授業を実施

和歌山県では地産地消の取り組みとして平成24年度から県内小学校・特別支援学校に対し主要農産物を教材として提供しており、出前授業を行うことで、「農業に対する理解を深め、郷土愛や食に対する感謝」を育成することを目的としている。

東牟婁地域では6月12日に串本西小学校への県産うめの提供に係る出前授業を実施した。

1年生5名に対して当課の濱端技師が「うめの一年間の流れ」を紙芝居形式で説明した。

その後、児童は教材のうめをもとに「うめジュース作り」を体験した。

児童からは「ジュース作りが楽しかった、完成するのが楽しみ」といった感想があがった。



授業風景

2. クビアカツヤカミキリ発生状況調査を実施

特定外来生物であるクビアカツヤカミキリによる、もも、うめ、さくらなどバラ科植物への被害が紀北及び紀中で確認されている。当地域への侵入、被害の拡大を防ぐため、早期の発見と駆除が重要である。

当課の濱端技師と村畑普及指導員が、6月4日から19日にクビアカツヤカミキリの発生状況を調査した。20地点のほ場のうめ、公園のさくら計700本において株元やその周辺にクビアカツヤカミキリの成虫やフラスが無いかを目視により確認した。

今回、成虫やフラスは確認されなかったが、チラシの配布等による生産者や関係機関への注意喚起を継続する必要がある。



調査の様子

Ⅷ 農林大学校

1. 2年生のインターンシップ研修

6月7日(金)～21日(金)、本校2年生の学生10名がインターンシップ研修に参加した。学生は、卒業後の希望進路ごとにわかれ、就職あるいは就農につながる農業法人、先進的な取組を行っている農家やJA、農業共済組合などで現場での仕事を体験した。

インターンシップ研修は、社会に出る前に実際の仕事現場を体験し、現場の人の話を直接聞くことにより、自身が社会でどれだけ通用するのか、不足しているものが何であるかを確認する貴重な体験となっている。実際に、研修に参加した学生は、将来の目標に向かって大きく成長したと手ごたえを感じている。

最後になりましたが、学生を受け入れてくださった研修先の皆様に心より感謝いたします。



農業法人でお世話になった方々



JA 観光農園での研修風景

普及活動現地情報 発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4919
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489